



令和6年度 ケアプラン点検結果

函館市保健福祉部介護保険課

■点検の結果(1) 課題分析（アセスメント）

■ 点検項目：7項目

7項目の平均で「よくできている」「できている」という評価が46%

「できているが、十分ではない」「できていない」という評価が54%

- 医学的な情報として、本人の健康状態及び心身の状況や**受診や服薬，疾患に関する基礎知識**の把握および本人や家族の健康に対する理解や意識の状況について、把握が不十分でした。

BMIを把握していない→**体重の増減が健康状態を左右し，疾患の増悪につながる**ことや高齢者の特性を理解することはアセスメントにおいて大事な視点となります。

- **本人や家族のストレングスに着目**したアセスメントの記載が十分ではないケースが多くありました。→本人ができることや家族が支援できること等に着目して記載しましょう。
- **ケアマネジャーが利用者の解決すべき課題として導き出した過程やその根拠**がわかる記録が十分ではありませんでした。

■点検の結果(2)居宅サービス計画作成

■点検項目：24項目

24項目の平均で「よくできている」「できている」という評価が69%

「できているが、十分ではない」「できていない」という評価が26%

※一部、該当なしの項目があるため、100%にならない場合があります。

- 第1表では「本人・家族の意向を踏まえた課題分析の結果」が記載されていないケースが散見されました。

本人およびその家族がどのような内容の介護サービスをどの程度の頻度で利用しながら、どのような生活をしたいと考えているのか**意向を踏まえた課題分析の結果**を記載する必要があります。

■点検の結果(2)居宅サービス計画作成

- 第2表では「長期目標」及び「短期目標」の内容がいずれも**漠然**としており、**具体的な記載と
なっていない**ケースが多くありました。

長期目標は、本人も努力して達成する到達点であり、目標達成のために具体的に何を行うかを明確にし、本人の意欲が湧くような内容にすることが大切です。

短期目標は、長期目標を達成するための段階的な目標を設定し、モニタリングの際に達成度が把握できるように具体的な記載をする必要があります。

- 第3表では「**主な日常生活上の活動**」の記載が**十分ではない**ケースが多くありました。

本人の生活パターンを記載することで、ケアチーム全体で本人の生活リズムを把握でき、サービスの提供時間が適切か、配慮すべき留意点、アセスメントの不足している点を考えることができます。

- 「**週単位以外のサービス**」の記載が**十分ではない**ケースが多くありました。

福祉用具やショートステイ等の週単位以外の介護保険サービスや医療機関等の受診状況や近隣住民の訪問等のインフォーマルなサポートを記載することで、サービスの全体像を把握することができます。

■点検の結果(3)サービス担当者会議

■点検項目：8項目

8項目の平均で「よくできている」「できている」という評価が59%

「できているが、十分ではない」「できていない」という評価が33%

※一部、該当なしの項目があるため、100%にならない場合があります。

- 医療系サービスを位置づける場合には、主治の医師等の指示があることを確認し、あらかじめ本人の同意を得て、主治の医師等の意見を求める必要がありますが、**意見を求めたことが記録から確認ができない**ケースがありました。
- **福祉用具の必要性や妥当性**について、サービス担当者会議で協議し検討した記録がないケースがありました。
- **「残された課題」の記載が十分ではない**ケースが多くありました。

結論が出なかった項目や予想される予後、さらに次回の会議の目的や開催予定日等を参加者全員で共有できるように、この欄に詳しく記入することが望ましいです。

■点検の結果(4)居宅介護支援経過

■点検項目：3項目

3項目の平均で「よくできている」「できている」という評価が69%

「できているが、十分ではない」「できていない」という評価が31%

- 居宅介護支援経過の記載が、客観的事実や事業者とのやり取りのみのケースがありました。
客観的事実・連絡のやり取りのみの記載ではなく、客観的事実に対して**ケアマネジャーがどのように判断し、その結果どうしたのか**や今後の方針等も記載しましょう。
- サービス事業者等との調整内容について記録がないケースがありました。
サービス事業所等とやり取りを行った目的や、その結果等についてわかりやすく記載しましょう。

■点検の結果(5)モニタリング

■点検項目：2項目

2項目の平均で「よくできている」「できている」という評価が98%

「できているが、十分ではない」「できていない」という評価が2%

- ほぼすべてのケースで**適切に実施**されていました。

■ 分析結果

- ▶ ヒアリングではほとんどのケースで日頃の関わりの中でしっかりと情報を把握されていることが確認できましたが、それを記録に残せていない方が多くいました。得た**情報を分析**し、**ケアプランの根拠**を簡潔かつ的確に**記録として残す**必要があります。
- ▶ また、目標設定では特に運動機能面において、現状維持を目標とするケアプランがほとんどでした。サービスを利用することで生活をどのように変えていきたいのかを考え、**その人らしさや個別性を意識**して、アセスメントをおこなうことが重要です。